

常吉部落有文書（2）概要

- 1: 文書群番号 108066
- 2: 文書群名 常吉部落有文書（2）
- 3: 出所 中村孝司氏
- 4: 家業・役職等
- 5: 地名 摂津国武庫郡常吉村／兵庫県武庫郡常吉村／武庫郡武庫村常吉／尼崎市常吉／尼崎市常吉1丁目ほか
- 6: 行政区分 幕府領／尼崎藩領／兵庫県第8区／常吉組戸長役場／武庫村／尼崎市
- 7: 歴史
常吉村は、市域北西部、武庫川沿いに位置する。史料上の初見は文亀元年(1501)で、常吉名とある。北に隣接する常松と同じく名田の開発領主名に由来する地名と考えられる。
村高は慶長10年(1605)に94石余、元禄15年(1702)に176石余、天保5年(1834)に215石余であった。近世を通じて尼崎藩と旗本佐藤氏の相給であり、佐藤氏知行所は14石余であった。
水利は、武庫井組に属した。氏神は須佐男神社(近世には牛頭天王社)、寺院は浄土真宗大谷派常願寺。
明治22年(1889)以降は武庫村、昭和17年(1942)以降は尼崎市の大字となった。
常吉村の一部は昭和17年防空緑地帯に指定され、昭和27年農地改革により小作農に譲渡されている。西武庫にかけて、市域で最初の大規模団地である西武庫団地が建設され、昭和37年に入居を開始した。昭和40～平成元年の住居表示により常吉・武庫豊町となったほか、一部が武庫元町・武庫之荘・常松・武庫の里となった。
- 8: 伝来 平成21年4月13日、中村孝司氏より借用、同24年4月に整理を終了。同年7月に中村氏より寄託をうけた。
- 9: 史料入手先
- 10: 点数 387点（目録件数319件）
- 11: 年代 正徳2年（1712）～昭和53年（1978）
- 12: 構造と内容 本文書群は数点の近世文書と幕末期から昭和40年代にかけての（1）名寄帳など土地関係、免状など地租関係、（2）賦課帳など支配関係、（3）区画整理事業関係とこれに関わる図面類などからなっている。
- 13: 関連史料 常吉部落有文書など
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 城戸八千代